広島工大 同窓会会報

第36号
発行 広島工業大学同窓会
編集 同窓会編集委員会
731-5193広島市佐伯区三宅2丁目1-1
広島工業大学内
TEL082-921-3121(内線)570
E-mail：dosokai@jim.it-hiroshima.ac.jp
URL：http://www.jim.it-hiroshima.ac.jp/dosokai/

限られた人生精一杯生きていく為に

広島工業大学同窓会副会長
松本　雅行

私の自分の人生ということで，一度若い頃から，現在，過去そして未来と経験・体験を踏まえながら，多少なりとも皆様方にご参考になればとお話をさせていただきます。

それは私が40歳の半ばを過ぎた頃だったでしょうか，いよいよ人生の後半にさしかかり仕事であれ，生活であれそろそろ纏めにはいらなければと思っている矢先のことでした。いろいろ気になること（自分自身，家族，会社，社員，社会の情勢等）を拾い上げてみると沢山噴出しはじめ，どのように纏め上げるか，これからどうするか暗中模索するしかありませんでした。

その当時の定年退職年齢は55歳であり，これに基づいて後10年をどのように仕事上で纏め上げ，次世代に引継ぎ今の会社を継続させるか真剣に考え，また自分自身の生活設計を再構築し，自分の存在責任を果たそうと自分自身の責務として戦いを受容することとしてスタートしたのです。

しかしながら，やや纏まりつつあった時，社会では60歳定年延長，労働時間の短縮等の労働問題が発生し，会社にとって非常にプレッシャーがかかり止む無く計画変更を余儀なくされました。

働く社員を第一優先。自分のことは後回しとして経営方針の刷新を計りここで改革に励んだのですが，今度は，高年齢化社会に合わせて退職年齢を65歳に引き上げるということが打ち出され，また企業のバリアフリー対策を取らなければならないといった諸問題が発生したのです。私は自分に課せられた任務としてこれを実現しなければと考え，第一に働く人達が将来像を描けかつ夢を持って働ける，また目標を掲げられる会社として環境の整備，コミュニケーション広場としてのワンフロアースタッフルーム，段差がない床，階段の手すりの設置，暖房便座の導入，シャワールーム，仮眠室の設置，事務所の照度を1,500ルックスにアップする等を組入れ実行する事。

第二に65歳定年延長の実施，第三に次世代を担う若手役員（20代，30代の新役員）の導入，第四に技術プロ集団としての新会社の設立，以上四つの項目を実施することを決め，平成14年度前半で実行することとし，5月末日に実現完成させました。

さて，ここで過去の事についてお話したいと思います。振り返ってみる20代，30代，40代

20代

社会に出ての一年生，就職したけれども社会のルールの中，初めて手にする給料，税金を引かれて初めてその存在を知り，なんと手取りが少ないものかを痛感し，片や仕事は過酷，食べるのが精一杯。休みもなく自分の時間さえもない。ただただ良い仕事をし，自分に課せられた仕事，ただひたすら仕事をしたいと思っておりました。感動を与えるとはいえませんがエネルギッシュに飛び回り，自分に目を向けていただけるように努力は惜しまなかった時代でした。

自慢ではありませんが，クライアントからは確かに高い評価を受け，沢山の賛美も頂戴いたしました。

営業成績は，数十倍にも計上できましたが，目的は報酬ではありませんでした。それは自分の仕事内容をみていただき，この仕事が必要だと考えていただき，認知していただきたいと切に願っているだけのことだったのです。

そしてこの仕事で社会に貢献できるとして身体を張ったのです。

そして，30代

29歳で会社を興し，一人また一人と社員が増える中，以前，お世話になった会社で作り上げた仕事をどのように生かせるかを考え，夢を膨らませてスタートしました。しかしながら，おっとどっこいせっかく立ち上げたにもかかわらず，業界は甘くありませんでした。

どこの会社とも取引不調，現実の裏と表ではまったく180度の大違いです。

29歳の試練の場で，「ここで負けては，今から先，戦は出来ぬ」，必ず壁に穴を開けてみせるぞ。皮を切られても肉を切る戦法の真剣勝負を臨むことと不撓不屈の精神で実現していくと心の中で決めた30歳。

30代半ばから社員も増え続け，その時はこれからのテーマを考え始めました。

社員はどのように夢を持って働いてくれるか，どうすれば会社を自分の会社として捉えてくれるか，私自身が責任者としてリーダーシップを発揮しないと，社員は目的と目標がないただの漂流船に乗っているだけ。しっかり舵を握らないと目標，目的に到達できない。責任重大であると認識を新たにしました。

社員と共に役割分担を明確にし，研究，探求，戦略の構築を主眼として常に開発・改革に挑戦し始めた30代でした。

そして40代です。

30代後半になりポツリポツリと独立（フリー）したことが，噂が噂を呼び，中央（東京）まで広がるようになりました。20代の私を見てくれていた人，共に仕事をしてきた人達が声を掛けてくれるようになりました。その時，異業種でありますが過去に商売について大切な事として私に指導して下さった大先輩が3つのことを教えて下さったのです。

1．仕事は取ってから（決めて）苦労しなさい。
　事前に資材，器材には投資するな。
2．仕事の発注をいただくお客様は大切だがもっと大切なのはメーカーだ。
　決定した仕事の協力は資材，器材メーカーの協力なくして実現は不可能。
3．金は個人から借りてはならぬ，借金をするならば銀行。
　努力し苦労してきた仕事は，一つ一つが実績になり信用をつける。
　個人からの借金は商談にひびく。

この3つのことを厳重に忠告され，体の中に刻み込み，初めて人の力を知ったのでした。これをベースに恐れず，迷わずゼロからのスタート（お金はマイナス）を切ったのです。当時，仕事がないならば，我社の片隅を使っていいよ，軌道にのるまで電話も自由に使ってもいいよとか，資材器材を購入するならば紹介するよとか段々と同情的な人であるとか精神的協力者から声が掛かり初めました。

でも，おいそれとは仕事の発注はありませんでした。しかし無かったのが不幸中の幸いでもあったのです。それはきっと自分で仕事を開拓しろという教訓だったのではないかと思います。私は自分自身に甘い言葉を与えず叱咤激励のみ，ただ「頑張れ」の一言，お客様に自分を見て判断していただこうと考え，努力の第一歩を踏み出したのです。

40代，ついに病に倒れる，入院1年有余。暴飲暴食，遊び過ぎ，「過ぎたるは及ばざるが如し」を痛感しました。しかしながら，明るい兆しがありました。自分がいなくても会社は存続できる。初めて社員に感謝すると同時に，血は繋がっていない他人でも会社が好きといってくれました。人間関係は複雑だけど自分の会社だと思ってくれました。社員の生活向上を考え始めた40代。

50代に入り会社が軌道に乗ったかなと思っていた矢先，世界に激震が襲ってきました。地球レベルで個人個人が考えを新たにしないと連鎖反応を起こし，事業しても一気に崩壊してしまう，危ない世界，危ない日本，危ない会社，危ない経営，地球環境をテーマにどのように構築するかを熟考する時代となっています。

大きなテーマが自分に与えられた気がしているような今，これからは心のケアというタイトルが見え隠れしています。

定年を迎えた人，迎えようとしている人にどんな仕事をしていただくか，人と人とのコミュニケーションをどんな形でつくれるか，自分自身と対話をどういうことで成せるか，限られた人生，一生懸命全力で生きていくことにしよう！

《なにごとも**全力**で頑張ってみる。
つまづいてころんでも明るく笑ってみせる。
どこかでほころびを見つけたら**繕力**する。
そうやって今日まで歩いて来た，でも時々疲れるよね。
だからありのまま与えられた**然力**で楽しみながら歩いてみようよ。
そしておだやかに**禅力**に心を抱いて，あたりまえの**善力**をつくしてみようよ。
いつかきっと暖かく優しい**千力**に見守られている自分を見つけるよ。
〔参考文献：日本個性学研究所〕》

広島工業大学電子工学科　昭和42年3月卒業
在学中は空手道部
株式会社ステージユニオン広島　代表取締役会長
株式会社エーシー　代表取締役会長
株式会社アイタック　代表取締役会長
社団法人日本照明家協会　副会長（元）